



授業改善に心血を注ぐ北海道高等学校遠隔授業配信センターの取り組みを、本誌 P.10～12 でお伝えしました。「目の前に生徒はいないけれども、できることをやる」。配信という制約を前向きに捉え、課題に挑むことで生まれた気づきや工夫の数々、またその活気。授業を配信されていない読者の先生方にも、参考になったのではないかと思います。

配信する授業以外での生徒との交流も、先生方は大事にされていました。大島恵子先生が受信校に赴いた際に、ある生徒がスマホにつけていたチャームは、ものづくりが得意な生徒の自作でした。その出来栄えに感心し、つい出た「すごい」という賛辞が生徒の心に残ったようで、後日、大島先生に生徒からチャームが届けられました（写真）。永遠に忘れたくない思い出も、一瞬の積み重ね。きっと生徒の心のアルバムには、センターの先生との写真もたくさん貼られているのだと思います。そうした時間の堆積があって、画面越しの授業は臨場感を増し、センターは「母校」の1つになるのでしょう。（河野）

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録しただけであれば、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法例】

- (方法①) 上の2次元コードを読み取る
- (方法②) LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」と入力して追加

VIEWnext

高校版 2025年4月号

4月18日発刊

(予定)

# Reader's VIEW

先生方からのご意見を  
紹介します

2024年10月号へのご意見

## 記事の図を使い、「自己調整学習」とは何かを生徒に説明

10月号の特集の九州大学大学院の伊藤崇達<sup>たかみち</sup>准教授の記事は、論理的で非常に分かりやすかった。早速、生徒に自己調整学習のサイクルやその大切さを、図1を用いて説明した。負の連鎖にある生徒も、自分の状況を把握し、意思コントロールの大切さを理解したようだった。高校は、「学習」を通じて生徒に学び続ける力を育てている。その力が身につけば、社会人になっても常に自己を調整し、仕事も頑張れるだろう。生徒に自己調整について考えさせることが大切だ。愛媛県・私立松山聖陵高校 大谷修一

## 教師が目的を持って指導する重要性を再認識

10月号の特集の九州大学大学院の伊藤准教授の記事を読み、自己調整学習の基礎を知ることができた。図1の「自己調整学習のサイクルが回っていない生徒」が例えば「やる気が出ない」場合は、授業の内容をその日のうちに復習できるプリントを配布するなど、生徒にどう働きかければよいかをイメージできた。図3は、「4.自己調整レベル」に徐々に近づけることの重要性を理解できた。教師が日頃から目的を持って指導することが、生徒の成長につながるのだと再認識した。静岡県 匿名希望

## 様々な教科の授業事例から、実践のヒントを得た

自己調整学習を授業にどう取り入れるか、試行錯誤している。10月号の特集で紹介された様々な教科の授業事例から、新しい試みのヒントをもらった。特に授業事例1・東京都立多摩高校の記事で、前時と本時とのタイムラグを活用して「問いのステップ」の解説を行う方法は、じっくり取り組みたい生徒とどんどん先に進めたい生徒の両方に対応できるよい方法だと思った。兵庫県立伊丹高校 松浦雅代

## 生徒が自ら問題に取り組む姿勢を持ち続けられる授業を

10月号の特集の記事から、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法のヒントを得た。生徒が自分の意思で学習に取り組み、計画を修正しながら進める自己調整学習についてももっと研究したい。また、授業事例3・長崎県立諫早高校の記事にあった「多くの教師が、『よい授業をしたら、生徒は1回の授業で学習内容を理解できる』と思っているのではないか」という言葉に強く共感した。私も、生徒は分かったつもりで、本当は理解できていないのではないかと常々思っていた。振り返りのテストで正しい答えを書けていないからだ。教師が自己満足する授業にせず、生徒に常に問いかけ、知的好奇心を刺激し、自ら問題に取り組む姿勢を持たせ続けることが、教師の役割ではないか。徳島県立総合教育センター 牧野浩章

## 評価方法を定期的に見直し、評価の信頼性を高めたい

10月号の「事例で深める! 学習評価」の静岡県立静岡東高校の記事を読み、観点別学習状況の評価の結果を評定に総括する際の3観点の組み合わせを13通りのみ示し、それ以外の組み合わせとなった時は、教師が評価結果を見直す中で、自分の授業や評価方法において改善すべき点に気づき、実際に改善するきっかけになっている取り組みが参考になった。評価の客観性や信頼性の向上を目指し、現任校でも学習評価の改善に取り組みたいと思わせてくれた記事だった。栃木県立今市高校 半田高史